

# 新人看護職員研修事業

## I. 貴施設に関すること

1. 施設名 ( 医療法人社団 関塚医院 )
  2. 所在地 ( 新潟県 新発田市 )
  3. 設置主体 ( 医療法人 )
  4. 施設の種類 A 病院  B 有床診療所 C 無床診療所  
D 助産所 E 介護老人保健施設  
F 指定訪問看護事業所
  5. 許可病床数(病院のみ) ( )床
  6. 病床区分  A 一般病床 B 療養病床 C 精神病床
  6. 看護単位の数 ( 2 )単位
  7. 一般病棟入院基本料区分(病院のみ) ・ 7:1 ・ 10:1 ・ 13:1  
・ 15:1 ・ その他  
療養病棟入院基本料区分 ・ 20:1 ・ 25:1  
精神病棟入院基本料区分 ・ 10:1 ・ 13:1 ・ 15:1  
・ 18:1 ・ 20:1
  8. 新人看護職員の指導体制  
専任の看護教育部門 A 有  B 無  
看護部門の専任の教育責任者 A 有  B 無  
(※注:「専任」とは、専ら、院内の継続教育を業務とする看護職員を配置している場合をいいます。)
  9. 平成23年4月30日時点での看護職員数(実人員) ( 21 )名
  10. 平成22年度中に離職した看護職員の離職率 ( 5 )%
  11. 9. のうち、新人看護職員数(実人員) ( 1 )名
  12. 10. のうち、新人看護職員離職率 ( 0 )%
  13. 新人看護職員研修内容の公開 A 有  B 無
- \* 有の場合、その公開方法をご記入ください。

(※注1:「新人看護職員」とは、免許取得後に初めて就労する保健師、助産師、看護師又は准看護師をいいます。)

(※注2:5. から8. については、平成23年4月30日現在にてご記入下さい。)

## Ⅱ. 研修内容に関すること

1. 研修期間 ( 12 )か月

### 2. 研修プログラム

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※2 (該当項目 に○を付けて 下さい。)		研修場所 (※3)		時間数	研修内容
		講義	演習				
4月	オリエンテーション	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	部署内	院内	6日間	オリエンテーション 技術指導(6か月の予定)
5月	講義受講	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	部署内	院内	4時間	講義受講(薬剤) 教育チェック表審査
6月	講義受講	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	部署内	院内	4時間	講義受講(マタニティーヨガ・アロマセラピー) 教育チェック表審査
7月	教育チェック表 審査	<input type="checkbox"/>		部署内	院内	4時間	教育チェック表審査
8月	講義受講	<input type="checkbox"/>		部署内	院内	4時間	講義受講(感染)
9月	講義受講	<input type="checkbox"/>		部署外	院外	2日間	セミナー受講(メディカ臨床セミナー:横浜) 「頼られる助産師になるための知識と技術」 (胎児モニタリング・助産技術)
10月	講義受講	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	部署外	院外	4時間	新潟県新生児蘇生法研修会受講:長岡赤十字病院 (新生児蘇生)
11月	学会受講	<input type="checkbox"/>		部署外	院外	5時間	学会受講(母性学会) 教育チェック表審査・技術審査
12月	講義受講	<input type="checkbox"/>		部署内	院内	4時間	講義受講(薬剤)
1月	講義受講	<input type="checkbox"/>		部署内	院内	4時間	講義受講(薬剤)
2月	講義受講	<input type="checkbox"/>		部署外	院外	2日間	セミナー受講(メディカ臨床セミナー:神戸) 「基本の分娩介助テクニックとおっぱいケア」 (助産技術・母乳)
3月	委員会説明会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	部署内	院内	4時間	委員会説明会

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○を記入して下さい。両方に○を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

### 3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

チーム支援型  
研修責任者1人、教育担当者2人、実地指導者4人

<病棟における指導>

助産業務・看護業務を主に教育担当者、実地指導者が1か月間マンツーマンで指導し、その後はチェックリストでチェックしサポートしている。

<外来における指導>

妊婦健診業務が行えるよう、医師・助産師・看護師でサポートしている。

### 4. 各看護単位では経験できないが、新人看護職に必要な知識・技術の修得方法

外部の講習会・研修会への積極的参加。

助産関連誌や情報誌による知識習得。

可能な限りスタッフをモデルとしたデモンストレーションを行い、技術面で安全を確認した上で患者に実施。

### 5. 経験できる技術が少ない場合の工夫

技術チェックリストを作成し、経験の少ない部分を明確にし、できるだけ経験できるようにしている。

## Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

### 1. 評価時期(自由にご記入ください)

1か月、3か月、6か月、1年で評価を行う。

### 2. 評価者(自由にご記入ください)

教育担当者2名

### 3. 評価方法(自由にご記入ください)

新人看護職員研修ガイドラインを参考に、当院オリジナルのチェック表を作成し、それに基づいて、A・B・C・D判定を行っている。

本人の自己評価と教育担当者の評価を照合しながら評価。

達成されない項目に関しては、次回の評価時にランクがアップするよう指導。

## IV. 指導者等の育成に関すること

### 1. 実地指導者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

講習会・研修会への積極的参加。

指導者同士やスタッフ間での意見交換の場をとる。

### 2. 教育担当者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

講習会・研修会への積極的参加。

指導者同士やスタッフ間での意見交換の場をとる。

## V. 事業の評価等に関すること

### 1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

院内研修を新人が参加しやすい日程に設定する。  
同時入職の既卒新人に相談しやすいような雰囲気作り。  
院外研修へはスタッフが一緒に参加するように配慮。  
職員健診の採血を新人研修として実施するなど、スタッフが新人の技術取得のための練習に協力する。

### 2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

新人が1名ということで集中して指導にあたれた。また評価も判定しやすかった。  
しかし、比較する対象者がいないため、基準が不明瞭。